

MT4 の設定が  
うまくいかない場合

と

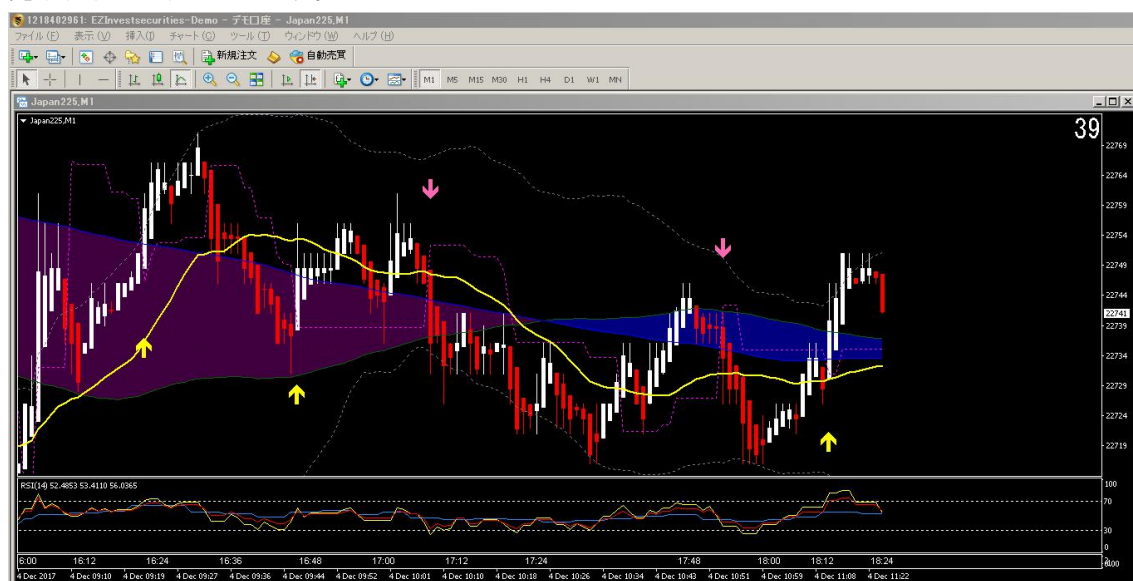
正しく表示されているか  
確認の仕方

デモ用

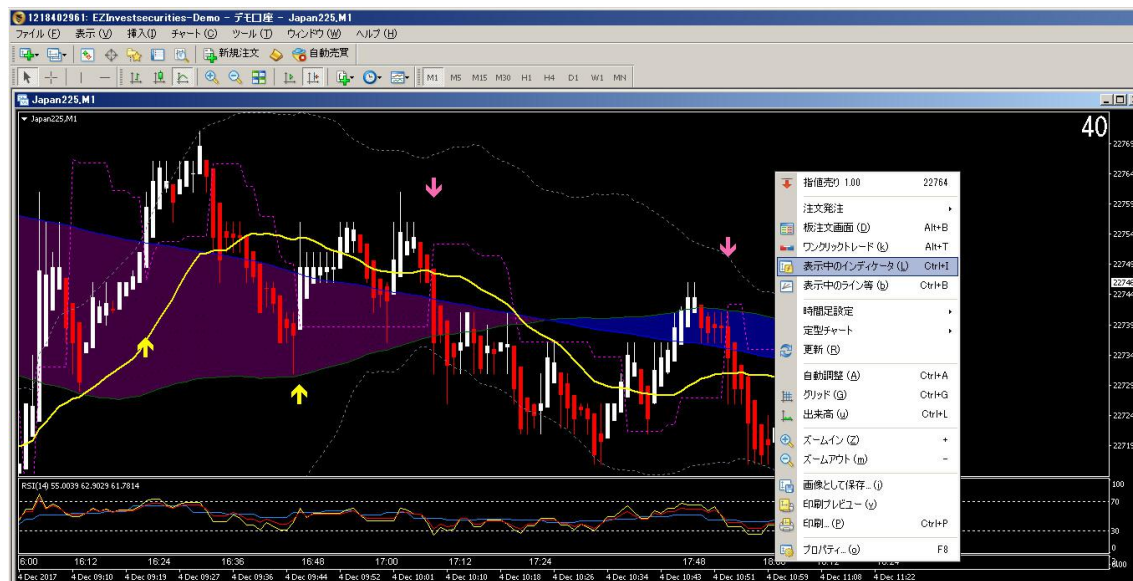
MT4 に、上手くインジケーターやテンプレートが表示できない場合は、下記の手順で一つずつ表示させていって下さい。

基本的には、「表示されていないインジケーター」だけを設定していけば良いですが、「表示できているインジケーター」に関しましても、念のためパラメーターの数字が合っているかどうかをご確認下さい。

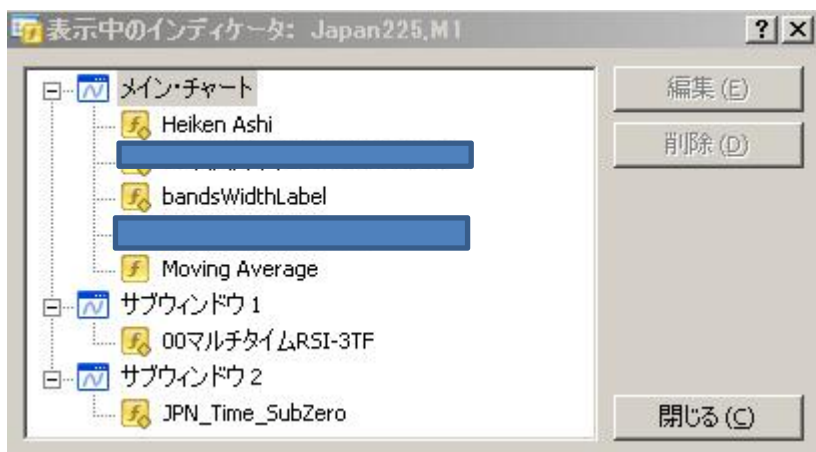
完成画面はこうなっています。



何のインジケーターが表示されているかを確認するには、チャート上の余白で右クリックし、「表示中のインジケーター」を表示を選択すると、



下図の画面が出ます。



メインチャートに2種類

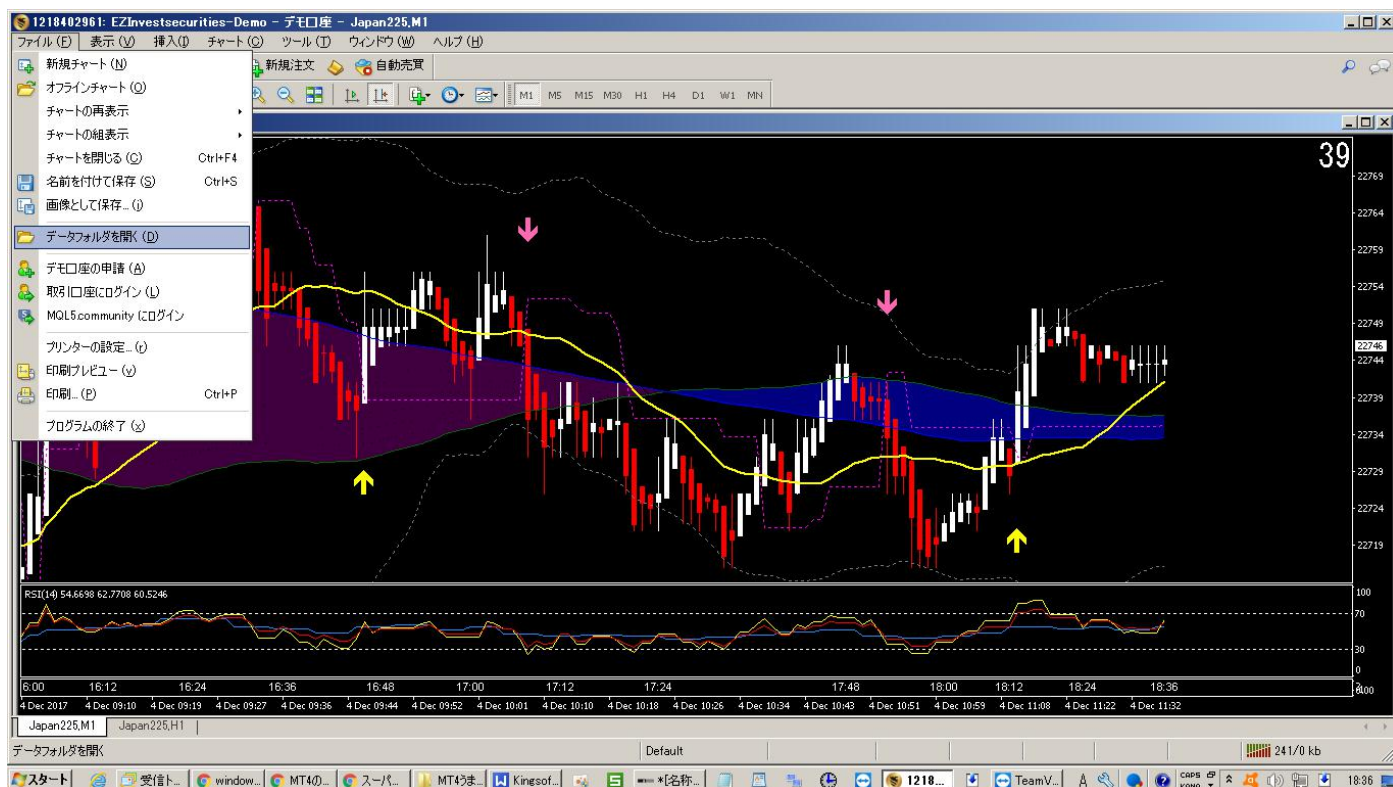
サブウィンドウ1に1種類

サブウィンドウ2に1種類 あるかどうかご確認下さい。ない場合は、以下を確認します。

1. MT4 を一度閉じて、再度開いて下さい。その上で、再度上記の作業をやってみて下さい。表示されますか？

2. それでも表示されない場合は、表示されていないインジケータを設定します。

ファイル → データフォルダを開く を選択



この画面が出ますので、MQL4 を開きます

名前 ▲	更新日時	種類	サイズ
config	2017/11/13 19:53	ファイル フォルダー	
history	2017/10/11 17:03	ファイル フォルダー	
logs	2017/12/04 8:01	ファイル フォルダー	
MQL4	2017/10/10 19:00	ファイル フォルダー	
profiles	2017/10/14 8:55	ファイル フォルダー	
templates	2017/12/03 12:14	ファイル フォルダー	
tester	2017/10/14 9:30	ファイル フォルダー	
origin.txt	2017/10/10 18:42	テキスト ドキュメント	1 KB

続いてインジケータフォルダを開きます。

名前 ▲	更新日時	種類
Experts	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Files	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Images	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Include	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Indicators	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Libraries	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Logs	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Presets	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Projects	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー
Scripts	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー

Indicators をクリックします

この Indicators のフォルダの中に、

- ① 00-マルチタイム RSI
- ② bandsWidthLabel
- ③ Heiken Ashi
- ④ JPN\_Time\_SubZero

があるかどうかを確認して下さい。

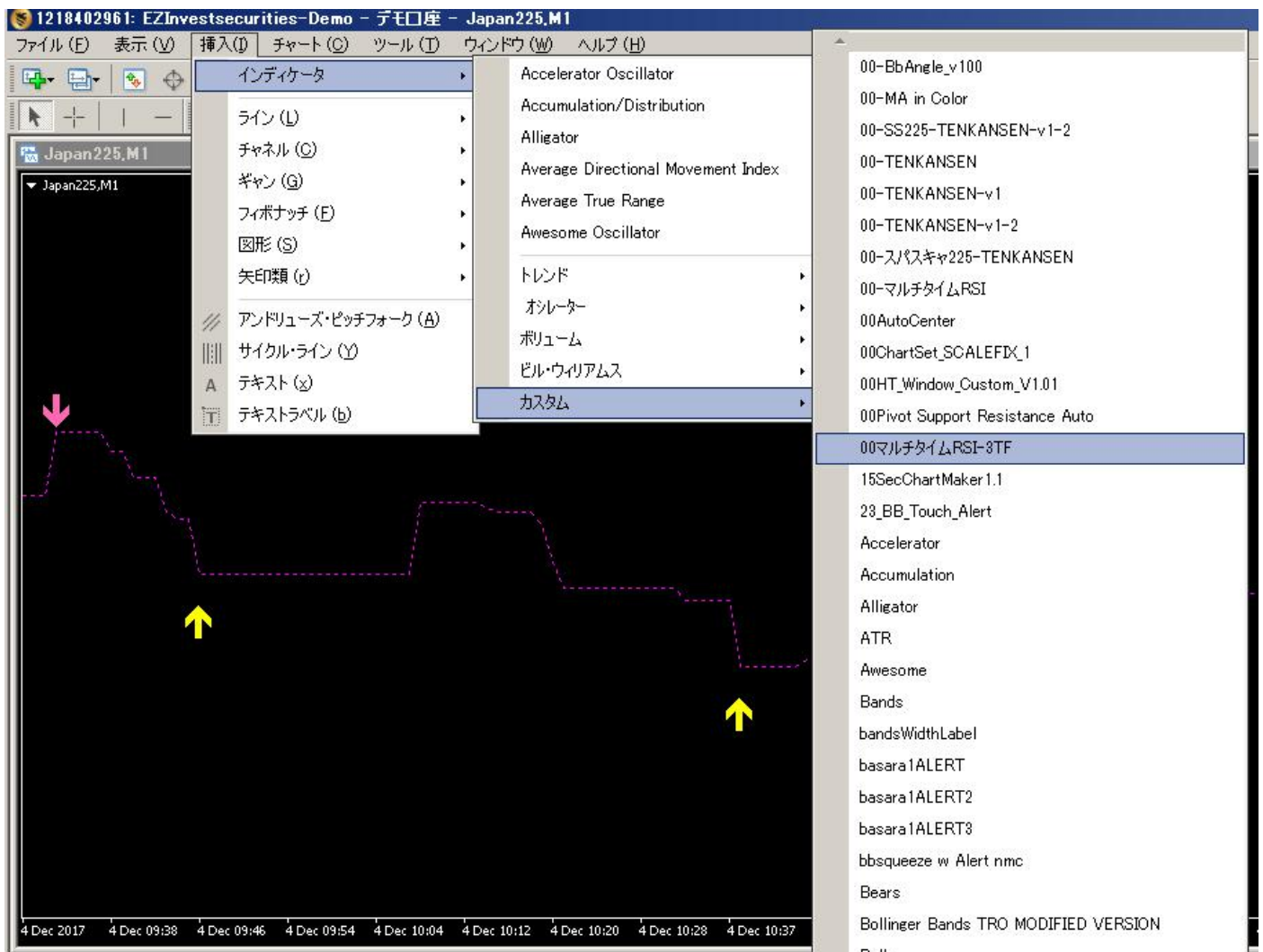
名前	更新日時	種類	サイズ
Examples	2017/10/10 18:42	ファイル フォルダー	
Accelerator.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	11 KB
Accelerator	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	4 KB
Accumulation.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	7 KB
Accumulation	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	3 KB
Alligator.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	10 KB
Alligator	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	4 KB
ATR.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	10 KB
ATR	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	4 KB
Awesome.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	9 KB
Awesome	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	4 KB
Bands.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	11 KB
Bands	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	5 KB
Bears.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	8 KB
Bears	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	3 KB
Bulls.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	8 KB
Bulls	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	3 KB
CCI.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	11 KB
CCI	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	5 KB
Custom Moving Averages.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	13 KB
Custom Moving Averages	2017/10/10 18:42	MQL4 Source File	7 KB
Heiken Ashi.ex4	2017/10/10 18:42	EX4 ファイル	12 KB

入っていないインジケーターがありましたら、メモして下さい。

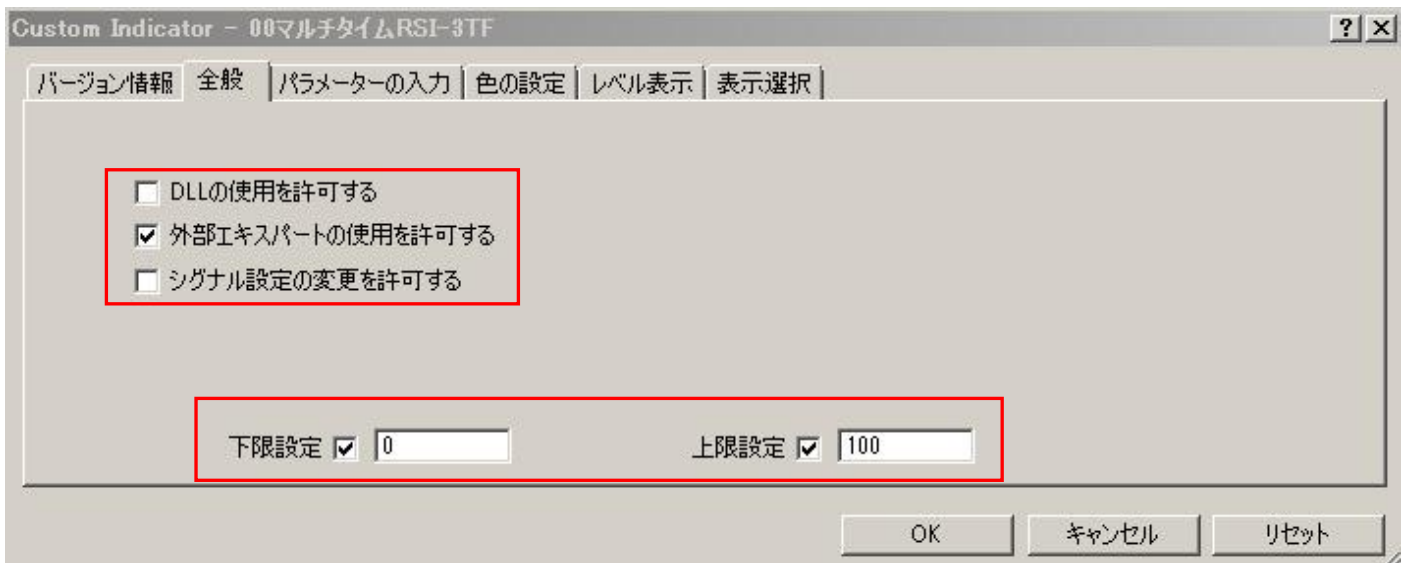
一つずつ設定をしていく方法を解説します。

① 00-マルチタイム RSI を表示させます。

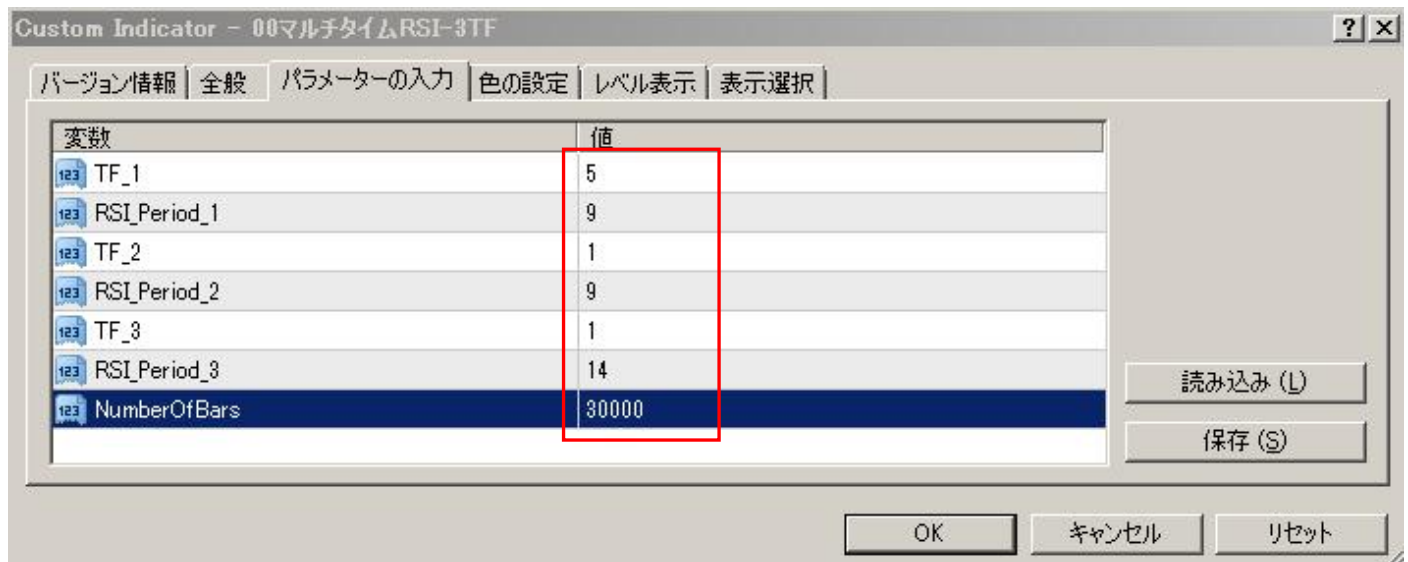
挿入 → インジケータ → カスタム → 00-マルチタイム RSI を選択



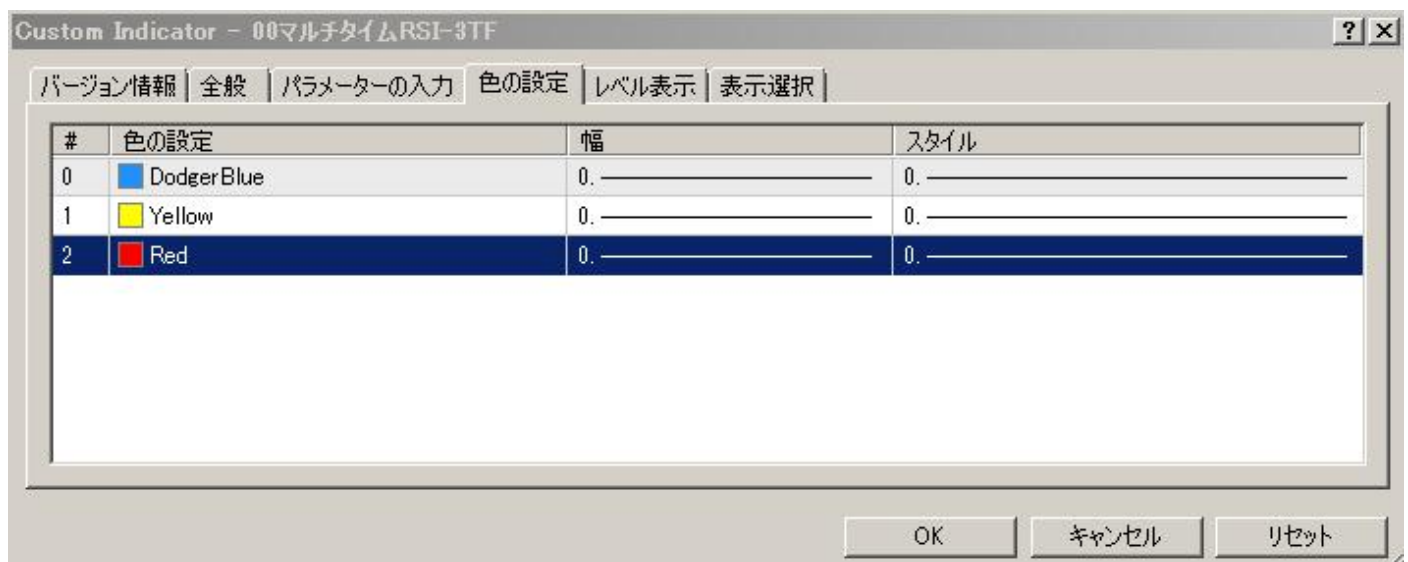
全般: 赤枠部分を同じにします。



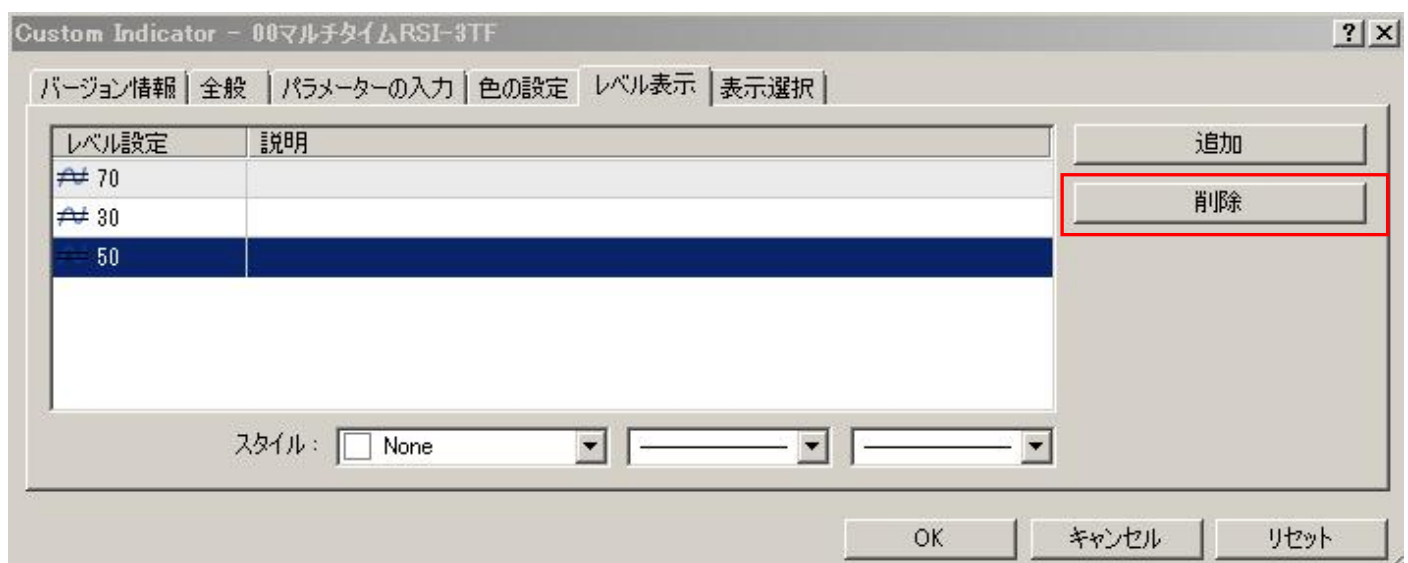
パラメーターの入力:パラメーターを下図と同じにします。数字の上でダブルクリックすれば変更出来ます。



色の設定:色はお好みで変更可能です。下図が初期設定の色です。



レベル表示:70と30のみにします。50を選択し、右側の削除ボタンを押します。

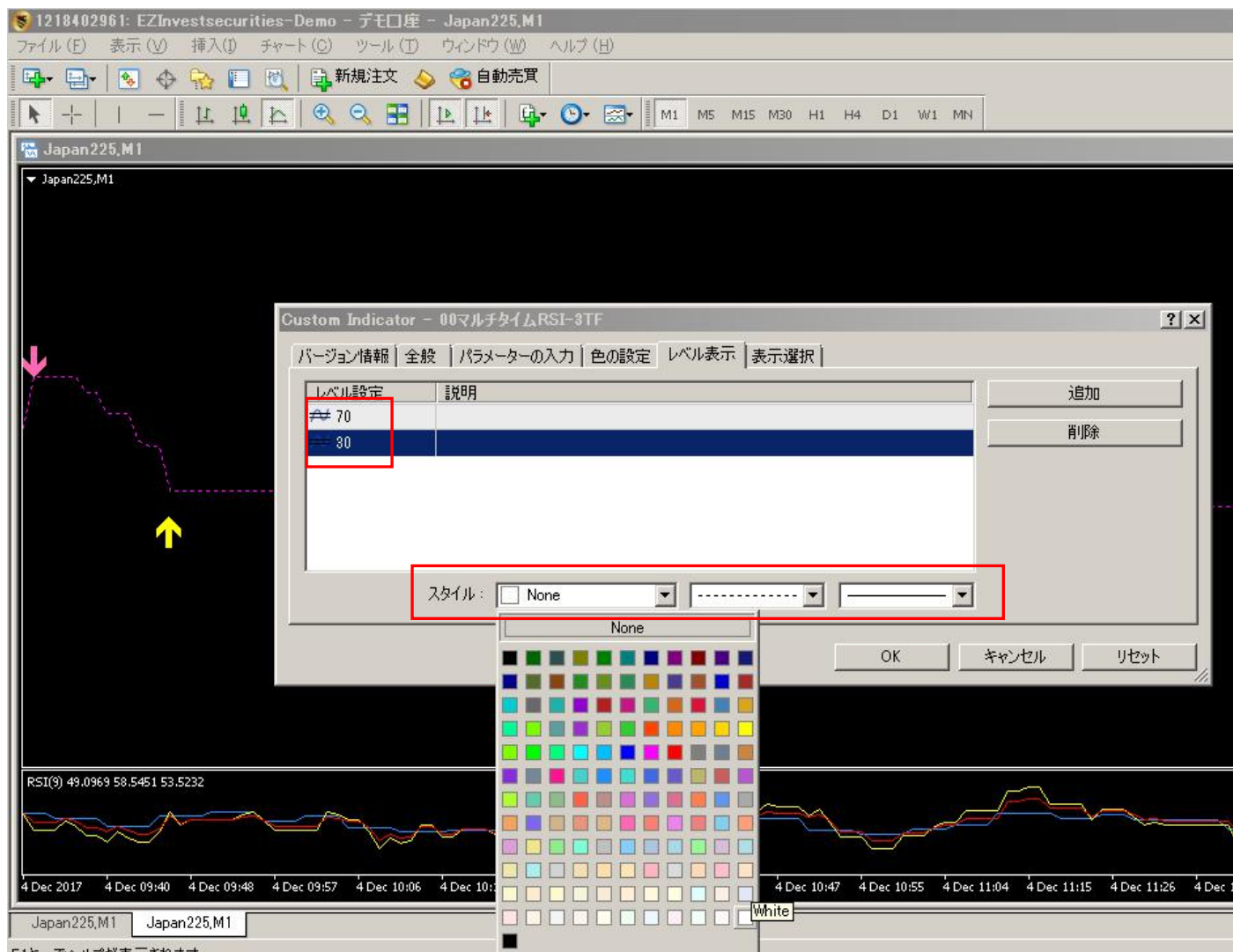


続いてスタイルを変更します。お好みで変更しても構いません。

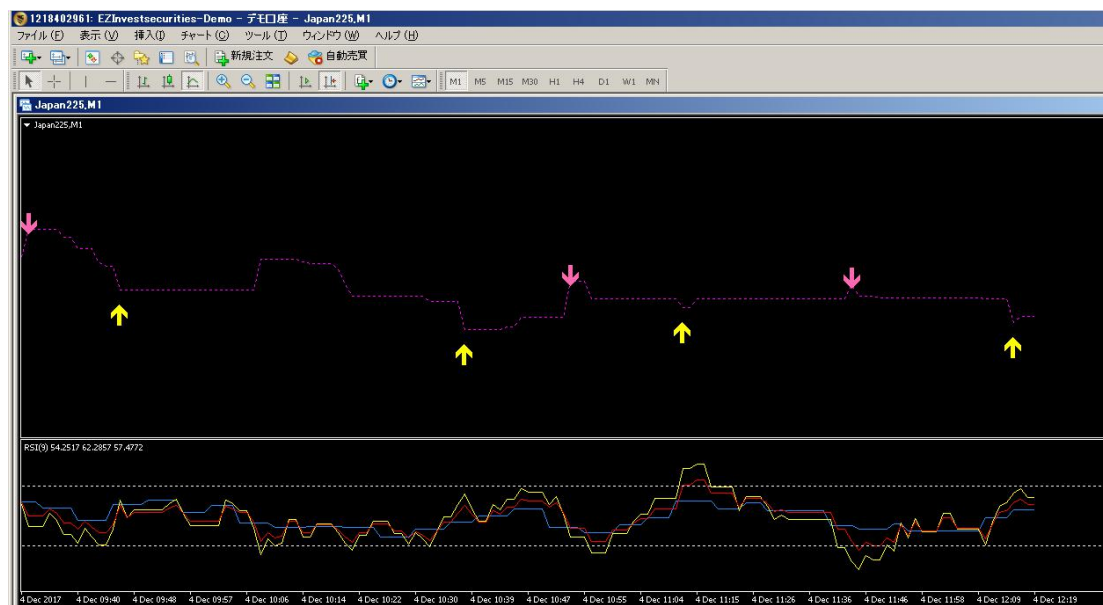
まずカラーを右下の WHITE にします。線の種類を点線にします。先の太さを一番上の細い線にします。

これを、70、30、ともにおこなって下さい。

最後に OK ボタンを押します。



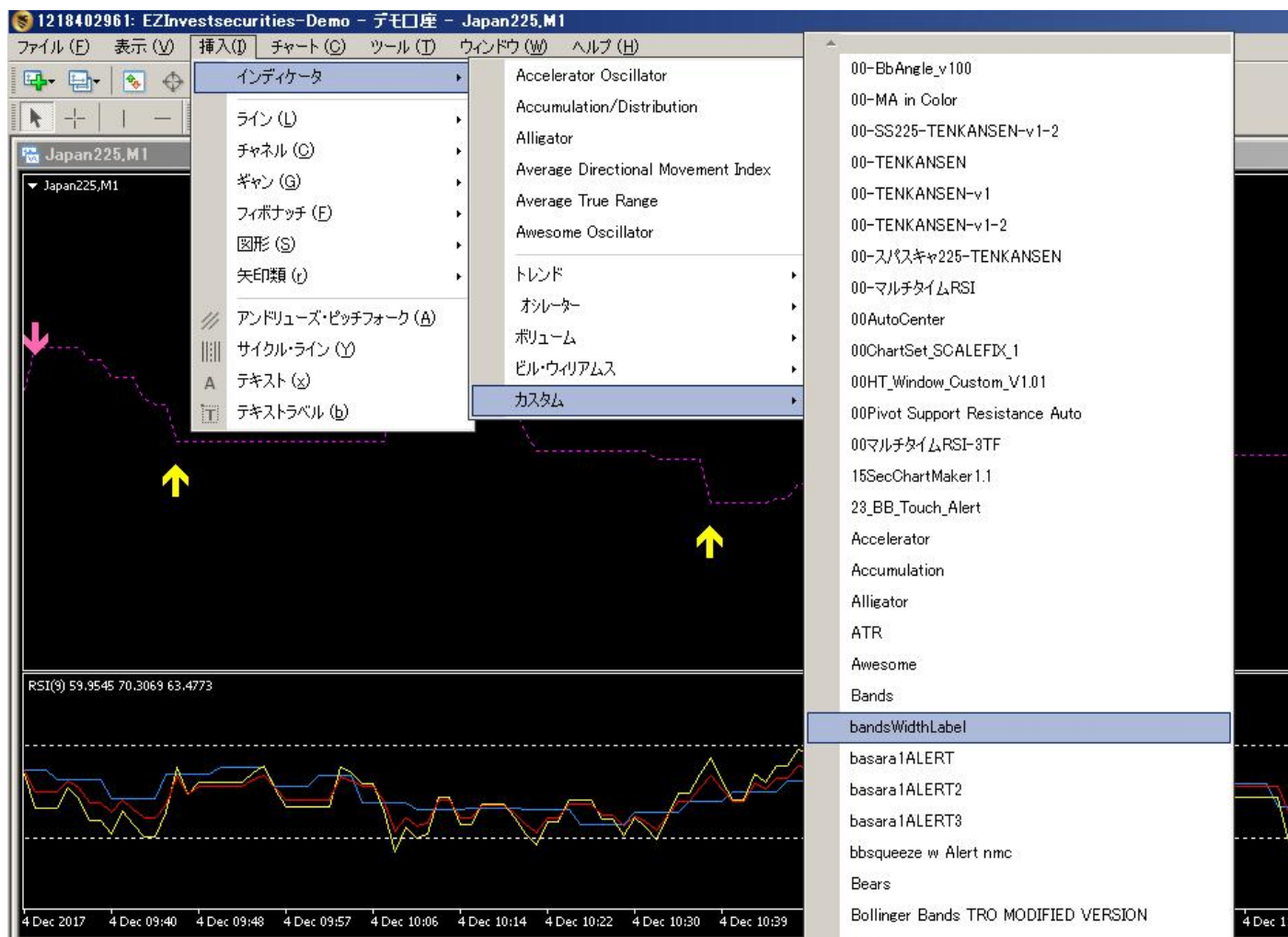
これで RSI が表示されました。(デモ版では矢印は出ません)



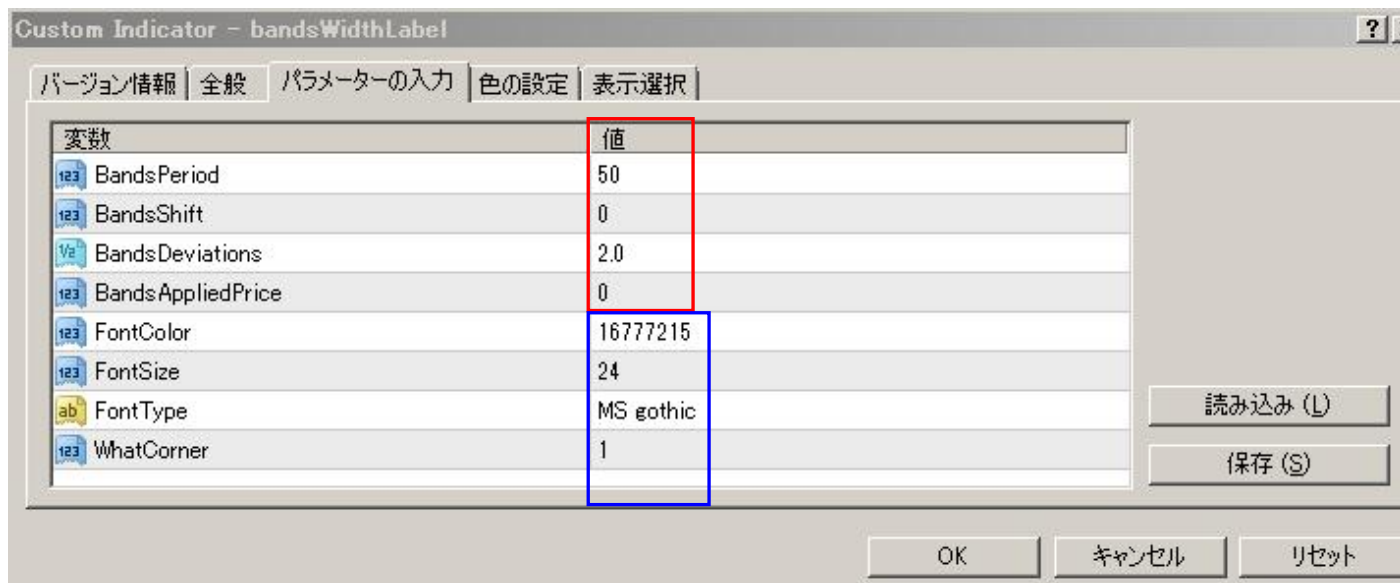


② bandsWidthLabel を設定します。

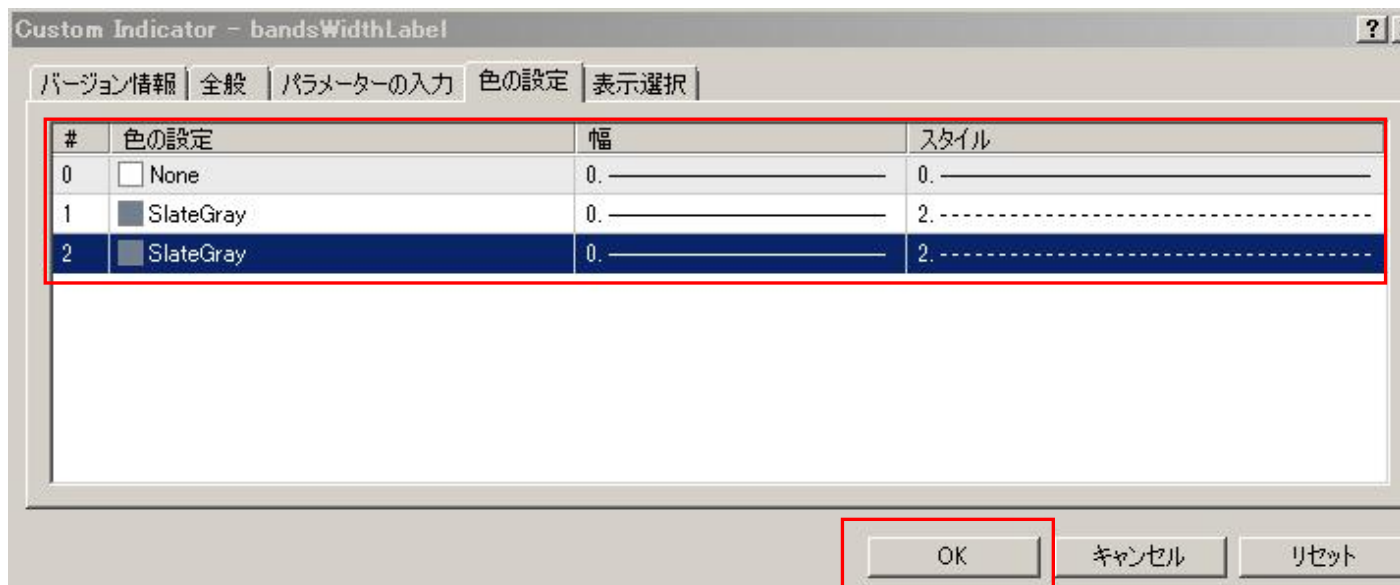
挿入 → インジケーター → カスタム → bandsWidthLabel を選択



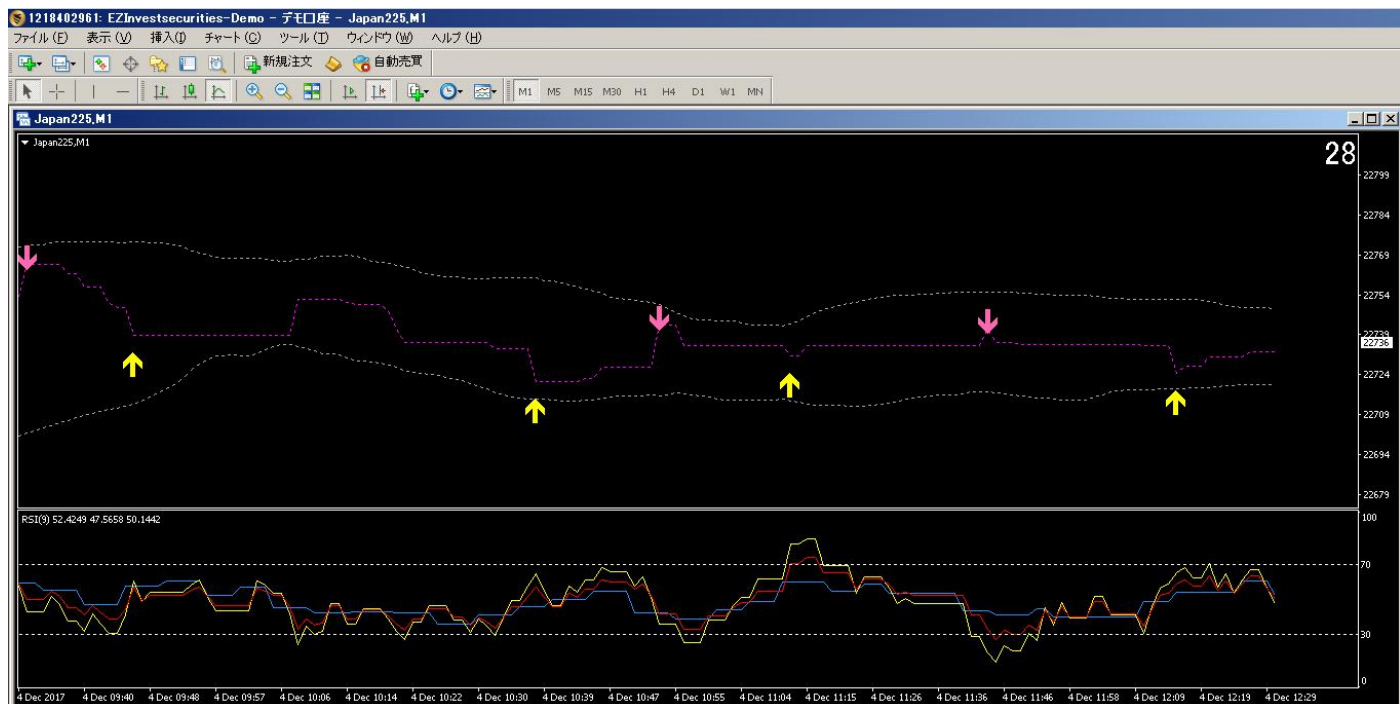
パラメーターの入力: 赤枠の部分を下図と同じに設定して下さい。青枠の部分は数字の色やサイズですので、お好みで変更できます。最下の WhatCorner は、画面への数字の表示位置を指定できます。0~3のどれかによって表示される位置を選べます。



色の設定: 下図と同じに設定して下さい。終わったら OK ボタンを押します。



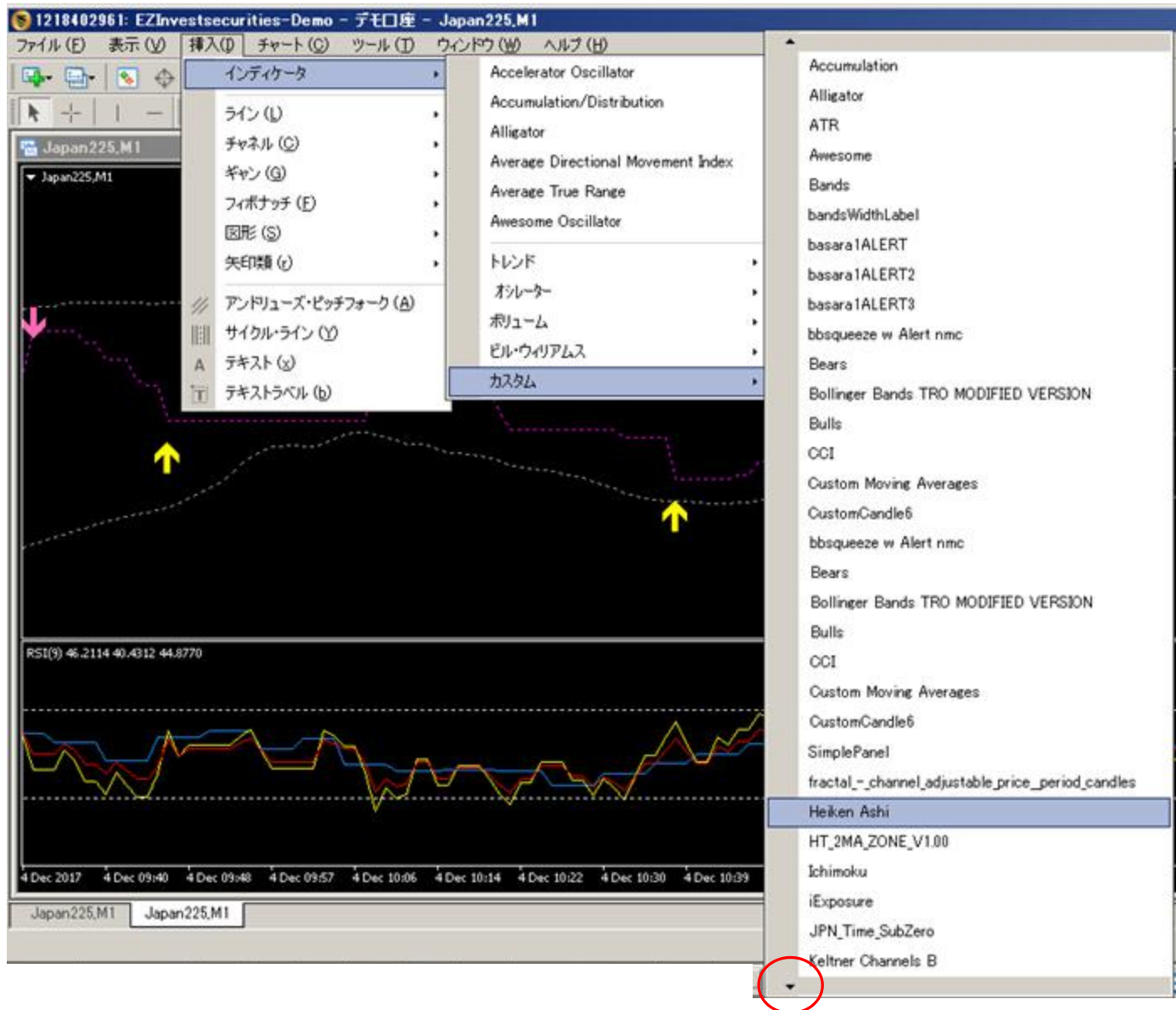
2種類のインジケータが表示されました。(デモ版では矢印は出ません)



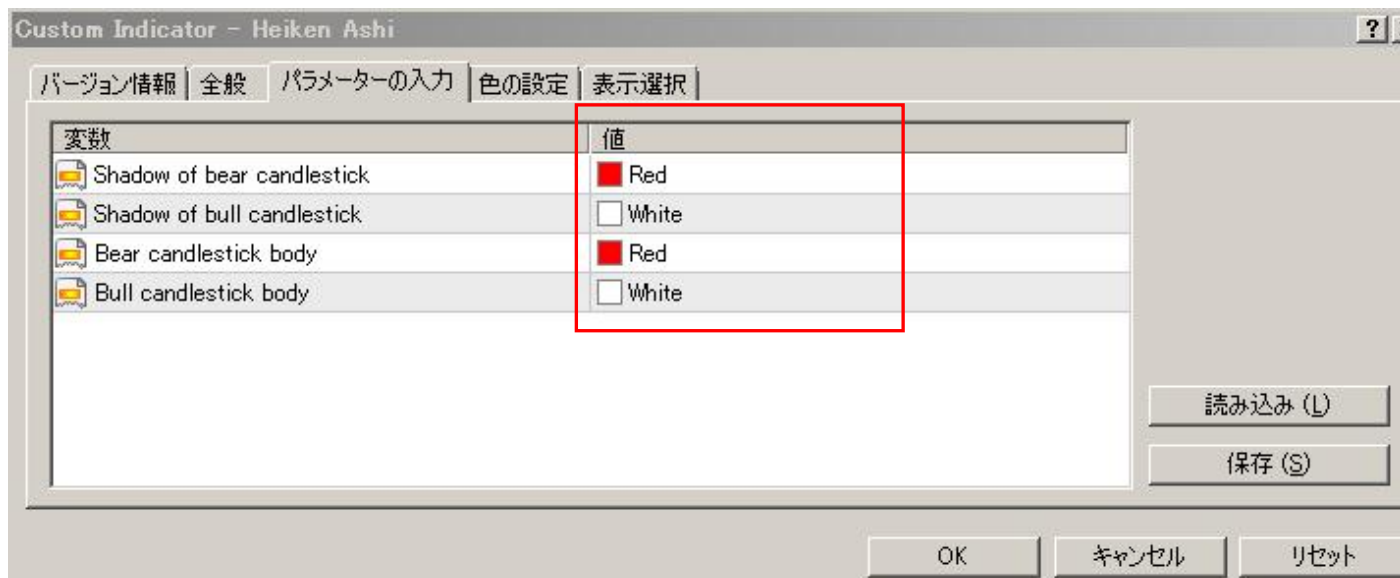
### ③ Heiken Ashi の設定

挿入 → インジケータ → カスタム → Heiken Ashi を選択します。

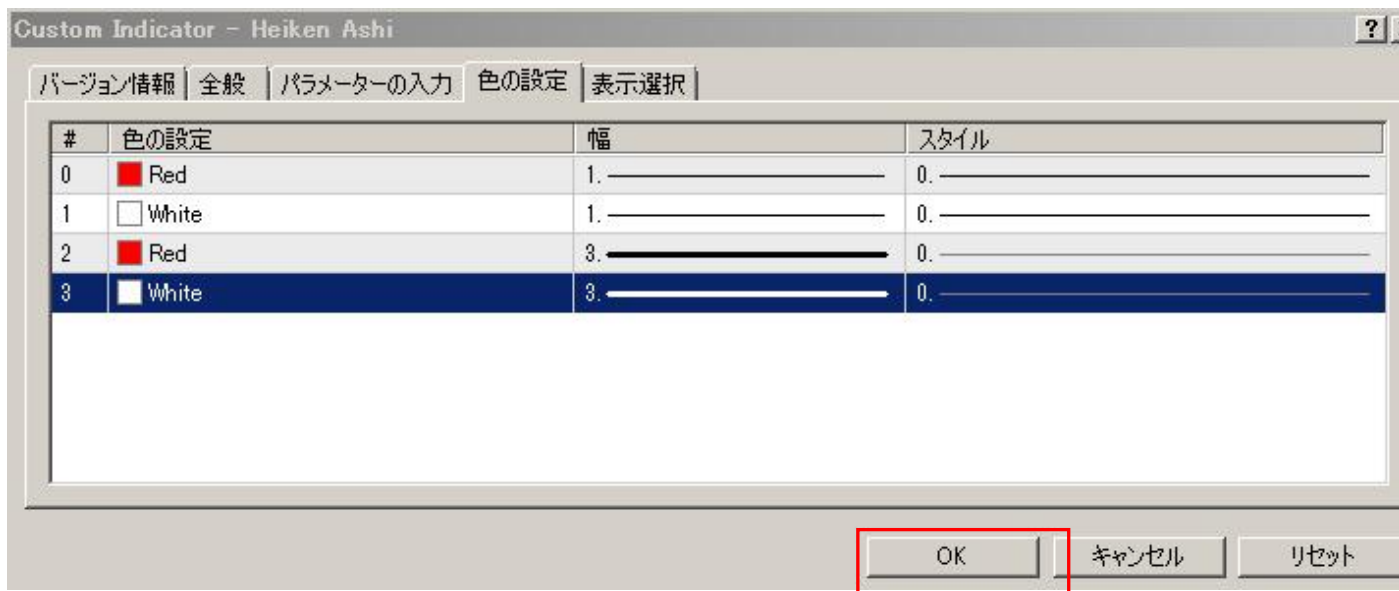
画面の下に隠れている場合は、赤丸の矢印で画面を下にスクロールして下さい。



パラメーターの入力: 下のように色を設定します。



色の設定: 下のよう設定します。最後に OK ボタンを押します。



これで3種類が表示され、下図のようになります。(デモ版では矢印は出ません)



#### ④ 25本移動平均線(25MA) を設定する

挿入 → インジケーター → テレンド → Moving Average を選択



パラメーターの入力: 下図のように設定します。最後に OK ボタンを押します。



25本移動平均線が追加されました。



### ⑤ Japan\_Time\_SubZero

最後に日本時間を表示するインジケータを設定します。

これは必ずしも必要ではありませんので、お好みで表示させて下さい。

挿入 → インジケータ → カスタム → Japan\_Time\_SubZero を選択



パラメーターの入力: 重要なのは赤枠の時差の設定部分です。夏時間・冬時間でも変わってきます。下図のように設定しています。

Custom Indicator - JPN\_Time\_SubZero

バージョン情報 | 全般 | **パラメーターの入力** | 色の設定 | レベル表示 | 表示選択

変数	値
123 TimeInterval	12
UseLocalPCTime	true
<b>123 Time_difference</b>	<b>7</b>
Grid	true
YEAR	false
MONTH	false
DAY	false
HOUR	true
Zero_H	false
MINUTE	true
SECOND	false
ARROW	false
NewLine	false
GridColor	None
123 FontSize	8
TextColor	White
UseColorGrid	false
Use12Hour	false

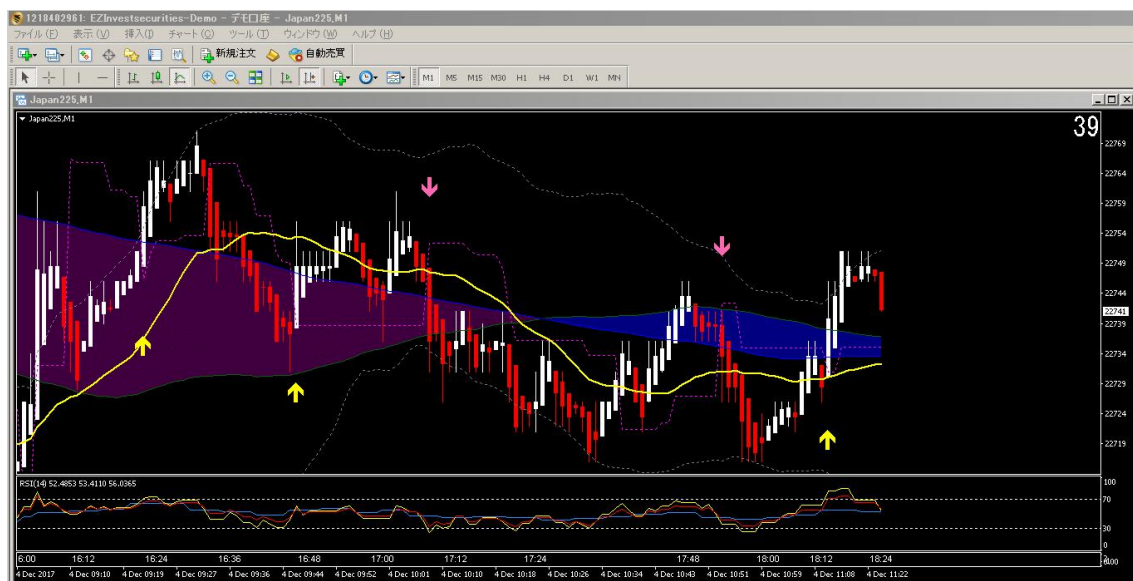
読み込み (L)  
保存 (S)

OK キャンセル リセット

これで設定完了です。



最後にもう一度、下記手順で確認して下さい。完成画面はこうなっています。(デモ版では矢印は出ません)



何のインジケータが表示されているかを確認するには、チャート上の余白で右クリックし、「表示中のインジケータ」を表示を選択すると、



下図の画面が出ますので、全部表示されているかをご確認下さい。





正しく表示されていたら、定型チャートとして保存しておきます。

チャート上で右クリック → 定型チャート → 定型として保存 を選択。



好きな名前をつけて保存をクリックすれば、上図の定型チャート内に保存され、呼び出すことが出来ます。

